

■米国：ペンシルベニア州、炭素排出量取引（RGGI）に参加へ

ペンシルベニア州のトム・ウォルフ知事（民主党）は2019年10月3日、米国北東部の10州が実施している炭素排出量取引制度（RGGI）への参加を正式に決定した。同州は州内で発電した電力の3分の1を州外に輸出しており、「RGGIに参加することで、気候変動問題に対応し、排出量を削減するための重要な機会が得られる」と州の幹部はコメントしている。ペンシルベニア州では50%程度を石炭とガス、43%を原子力で発電している。今回の決定では2020年7月31日までにRGGIに参加するための具体的な規則を提案することが求められている。RGGIはコネチカット、デラウェア、メイン、メリーランド、マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ニューヨーク、ロードアイランド、バーモント、ニュージャージー州が加盟しており、ペンシルベニア州の参加は11番目となる。